

2016 平和行動 広島

2016年8月4日(木)～6日(土)

女性委員会幹事 外山 和美 (JAM神奈川)

ピース・ウォーク

広島平和記念公園の中の11か所のポイントで連合広島の方々に説明をしていただきました。誰でも知っている原爆ドーム、平和記念資料館だけではなく、動員学徒慰霊塔や原爆供養塔なども詳しく説明をしていただきました。

私がびっくりしたのは、被爆した日本人だけの為ではなく、韓国人原爆犠牲者慰霊碑や、原爆犠牲者国民学校教師と子供の碑など、公園内に何か所も手を合わせ、平和を祈る場所があったことです。

連合平和ヒロシマ集会

開始前から多くの団体からの折鶴の献納があり、壇上はすぐに色とりどりの鶴でいっぱいになりました。

この集会の中で、被爆者体験証言として、5月にオバマ大統領が広島訪問をされた時に、握手を交わし、会話をされた、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員、坪井 直さんの講演を聞くことができました。「過去・現在・未来」に分けて話をするとおっしゃっていたので、オバマ大統領との話を詳しく聞きたかったのですが、やはり「過去」の思い入れが強く原爆体験について一番長く時間をかけられていました。20歳で被爆し、小学生の女の子を助けてあげられなかった事が今でも夢にでるし、話しをすると涙が出てくるとおっしゃっていたのが印象的でした。71年もの長い年月が経っても記憶は薄れないし心の傷は癒えないのです。91歳になられても「核廃絶をあきらめない！」とのお言葉に、ただただ頭が下がる思いでした。71年間戦争が無かったこの日本を「普通」だと思わず、今後とも継続していくのには、これからの若い世代の力を借り、つなげていかなければいけないと強く感じました。



エレかながわ

連合神奈川 連絡先 / 横浜市中区山下町24-1 ワークピア横浜4F
電話番号 (045) 211-1133
発行・編集責任 / 連合神奈川女性委員会

第49号

<http://www.rengo.or.jp>

連合神奈川「男女平等月間」

連合は6月を男女平等月間と設定し、男女平等推進への機運を高めるため、時々の課題をテーマに取り組んでいます。

連合神奈川として、今年も多くの県民・市民にアピールするために、6月3日(金)17時より桜木町駅前において、「男女がともに働きやすい社会」をスローガンに掲げ、男女平等参画推進委員会、青年委員会とともに街頭行動を行いました。

青年・女性委員会、岸部県会議員、麓市議員、石渡市議員、伊藤市議員によるリレートークと、連合神奈川の男女平等参画社会に向けた取り組みや4月1日施行された女性活躍推進法についてなど、自分の職場環境を見直してもらうためのチラシ入りティッシュとクリアファイルを配布してきました。



また、5月19日(木)～20日(金)には、連合が全国一斉で行う労働相談ダイヤルを「女性のための全国一斉労働相談～STOP!セクハラ・パワハラ・マタハラ」として行いました。私たち女性委員会も労働相談員と協力しながら電話対応をし、多数の相談を受けました。

これからも、男女がともに協力しあえる社会を目指し、継続して取り組んでいくことが重要だと感じました。



2016 平和行動 in 沖縄

6月23日(木)～25日(土)

女性委員会幹事 今村 紀子 (情報労連)

6月23日、雨の羽田を飛び立ち梅雨開きの沖縄へ到着しました。この日は1974年に制定された沖縄県の条例により、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである恒久平和を希求するとともに、戦没者の霊を慰めるため「慰霊の日」と定められています。

連合は毎年「慰霊の日」に沖縄を訪れ、平和とは・戦争とは何かを知り、未来に向け何が出来るかを考え、行動する機会としています。その行動に参加しました。

1日目、那覇市民会館において2016平和オキナワ集会在開催されました。まず、カリスマスーパーバスガイド崎原真弓さんによる、型破りな一人芝居の講演で幕を開けました。戦争体験者から聞いた体験を一人芝居で伝えるというものです。暗いガマの中で赤ちゃんの泣き声が漏れないようしっかりと抱きしめ、気が付いたら息絶えていた体験者の話を、まるで自分の体験のように一人芝居で伝える崎原さんの表現に、会場からはすすり泣きも聞こえました。わが子を自分の手で殺してしまった母親の悲惨さがひしと伝わってきました。

2日目は、バスで連合沖縄青年委員会のピースガイドのもと戦跡や基地を巡りました。嘉手納基地では、戦闘機が轟音を轟かせ発着陸を繰り返していました。民家や畑はすぐ側にあります。危険と隣り合わせの生活を強いられている沖縄県民がいます。多発する米兵による事件・事故。

日本の基地の70%以上が沖縄にあります。普天間基地や辺野古を見学し、本当に沖縄だけに基地を押し付けていいのだろうか？沖縄の問題は日本全体で考えなければならない事だと、2日間の行動に参加し感じました。平和な日本に生まれ戦争を知らずに育ちました。戦争は誰も幸せにしません。二度とこの過ちを繰り返してはならないのです。

女性委員会幹事 岡村 真美 (電機連合)

6月23日(木)から25日(土)にかけて、2016連合平和行動に参加した。

初日、慰霊の日にあわせて那覇市民会館で「2016平和オキナワ集会」が開催された。ちょうど梅雨が明けた沖縄の蒸し暑い午後、語り部(崎原真弓さん)より太平洋戦争の末期に起きた沖縄の悲しい歴史が語られ始めると、会場の空気が一変した。対馬丸とともに暗い深い海の底に沈んだ幼い命、我が子を救えなかった親の無念。やっとたどりついたガマで命尽きる我が子、その子のために声を出して泣くことさえ許されない戦争の無情さ。生きていればどんな未来が待っていたことかと想像すると、涙が溢れ、心が張り裂けそうになった。

崎原さんより発せられた「命こそ宝」というメッセージ。私にも小学生の娘が二人いる。生まれてきてくれて、そばにいてくれるだけでこんなに幸せなことか、と改めて考えさせられた。

翌日は、県内施設の視察とデモ行進に参加した。連合沖縄の皆さんがガイドとなり、バスの中や視察先で、沖縄戦の悲劇や、その後も繰り返される事故や犯罪について説明してくれた。辺野古の埋立て予定地や嘉手納、普天間などの米軍基地を視察し、連合軍上陸の地に着いたとき、ガイドの女性が「空が青くてとてもきれいって皆さん思うでしょ。でも、私のおばあは空がきれいって思えないって言うんです。」と話してくれた。戦後何十年経っても、爆撃機が飛んでくる恐怖が消えないのだと。他のガイドの男性は、「僕たちは沖縄戦の激戦を生き抜いたおじいやおばあの子孫。だから伝えないといけない。」と話してくれた。平和ボケしている自分に反省し、連合沖縄の皆さんのおもてなしと使命感に感嘆した平和行動だった。

連合神奈川として派遣いただいたことに心より感謝するとともに、今回の体験を忘れることなく活動に活かしていきたいと感じた。最後に、一緒に参加した連合神奈川の仲間、事務局の方々に感謝いたします。ありがとうございました。



【命こそが最高の宝】

女性委員会幹事 佐藤 世里加 (JP労組)

慰霊の日である6月23日に沖縄県那覇空港に到着した。とても天気良くきれいな青空が広がっていた。

那覇市民会館で行われた平和オキナワ集会では、カリスマスーパーバスガイドの崎原真弓さん扮するおばあ戦争体験を聞いた。

死にたくて死んだ人はいない。戦争があったという事実を思い出し、亡くなった一人ひとりの辛く苦しい思いを感じることによって魂が天国に帰って行くという。戦争とは、人と人が殺し合い、人の心を破壊していくこの世で一番恐ろしいことである。集団自決では手榴弾が足りずに死にきれなかった者達同士でカミソリを使って殺しあったという。

【命こそが最高の宝】

「家族の平和」「職場の平和」「地域の平和」を願い、誰かに支えられて生きている感謝の気持ちを忘れず、日々を大切に生きていきたい。

